

メリークリスマス

吉田敦美

ここはあまりに白い山なので、ふみしめても
ふみしめても沈まない月が

湖に反射している

もみの木が揺れ、途切れ

わたしの代わりに生きてゆこうとする

毎日起きて、食べて、排泄をして

かたちばかりの義務をこなして

寝ることに飽きていたわたしは

もみの木になってみることにした

ことばでいうのは簡単だったが

もみの木のからだになるのは

たやすいことではなかった

皮にくるまれて

息がくるしい

技を伝授してくれなかったから

幹のわりに葉っぱがたくさんだから

視界のすみで

かつてわたしだったものが

きちよりきちよりと遠ざかってゆくのを

血まなこのようなもので捉える

背中にもみの葉を生やして